



2023-2024年度

2023年9月27日(水)

WEEKLY NEWS

【10回】

通算 2471回



国際ロータリー第2640地区

和歌山東南ロータリークラブ【週報】

会長:塩崎和仁 幹事:坂本武司 会報委員長:小林一三

事務局 E-Mail: rotary@wakayama-serc.org http://wakayama-serc.org/

例会日 水曜日 例会場:村アパローム紀の国 第1,第2,18:30~(夜) 第3,第4,第5,12:30~(昼)

先週例会報告 会場監督 中岡隆文

ゲスト:NPO 法人 こども食堂 理事長 岡 定紀様

《 会長挨拶 》 塩崎和仁会長

- ① 先週の熊本東南ロータリークラブのお迎え・お見送り・ゴルフ・高野山観光とお疲れ様でした。4月の熊本東南ロータリークラブ創立40周年記念式典には会員全員でお祝いに行けたらと思います。宜しくお願い致します。
- ② NPO法人こども食堂わかやま 理事長 岡 定紀様 後ほど卓話宜しくお願い致します。
- ③ 社会奉仕事業「秋の収穫祭」10月14日(土) 会員の皆様、参加宜しくお願い致します。



《 幹事報告 》 坂本武司幹事

- ① 2件事務局に届いておりますので、各テーブルに一部置いてあります。ご一読頂き、御入用の方はお持ち帰り下さい。
 - ・日本ライトハウス(目の見えない方・見えにくい方のための総合福祉施設、盲導犬育成応援)からのNews letter フォワード75
 - ・米山梅吉記念館 館報 2023 秋号 Vol. 42
- ② 「第38回 和歌山中RCとの合同例会」のご案内
日時:11月17日(金) 受付18:00~、例会・懇親会18:30~20:30
場所:ダイワロイネットホテル和歌山4F、ホストクラブは和歌山中RCです。皆様のご出席、よろしくお願ひいたします。
- ③ 地区インターアクトクラブリーダーシップフォーラムのご案内
日時・場所:10月15日(日)10:30~15:00、高野山高等学校、*アイスブレイク・ワークショップ「ロータリアンに学ぼう」*瞑想体験「心を整えよう」
登録料:3,000円、締切:10月7日(土)
- ④ 10月14日(土)「秋の収穫祭」に参加いただきます皆様の傷害保険に加入いたします。住所、生年月日(年齢のみは不可)、お名前(カタカナ)が必須となります。ご家族様でご参加いただけます方は必ず10月10日までに事務局まで3点をご連絡いただきますよう よろしくお願ひいたします。尚、当日参加も大丈夫ですが、傷害保険には未加入となります。



本日の出席報告									
会員総数	39名		出席者	出席率	寄付金	ニコニコ	米山記念 奨学会	ロータリー 財団	東南 育英会
出席免除会員	2名	9/27	25名	65.79%	累計	821,964	28,000	181,000	0

《 ニコニコ箱報告 》 中曾真二郎会計

塩崎君：こども食堂わかやま 理事長 岡 定紀様、本日は宜しく申し上げます。
坂本君：こども食堂 岡理事長様 本日はよろしく申し上げます。
溝落君：姉妹クラブへのご協力に感謝。
竹中君：欠席ばかりで申しわけありません。
中曾君：こども食堂 岡 定紀様 本日もどうぞ宜しく申し上げます。



《 ローターリー財団 》

山田君：こども食堂わかやま 理事長 岡様、よろしくお願い致します。

《 米山記念奨学会 》

平君：趣旨に賛同して。

「委員会報告」



ロータリー情報規定委員会 委員長 山田さち子

第2回 IDM テーマ「ニコニコ箱への再認識」

新入会員様への説明を各リーダー様お願いいたします、新入会員様の入っていない班もございます。

ニコニコ箱とは例会場で会員が自由意思で善意の寄付金を入れる箱です

四大奉仕（職業奉仕・社会奉仕・国際奉仕・青少年奉仕）活動に使用されています。

そもそもの始まりは罰金箱で現在も外国では FineBox としている所が多い。欠席

遅刻 早退 etc. ところが大阪ロータリークラブで昭和 11 年 区の協議会で社会奉仕に関するプレゼンテーションをした際、資金集めの方法としてニコニコ箱を提唱したそうです。祝い事があった場合めいめいニコニコとして応分のお金を自発的に入れる事にしたらと言う事になり又は失敗したり迷惑をかけた時もユーモアたっぷり苦笑いしてニコニコ箱に入れる、大阪ロータリークラブから始まったとされています。

皆様楽しい親睦をお楽しみください。

「東南会ゴルフ同好会へ」 塩崎会長より優勝カップ贈呈



「本日の例会」2023年10月4日(水) 18:30～ 7パロム紀の国

- ・開会点鐘 塩崎会長 ・ローターリング 君が代、われ等と歌山東南ローター、ハッピーバースデー ・出席報告(会場監督) ・ニコニコ箱(寄付金)報告 ・委員会報告 ・「行事」クラブフォーラム 米山記念奨学会委員会 卓話 ホアン ティ タオ様(第 2640 地区 米山奨学生) ・閉会点鐘 塩崎会長

外部卓話「地域における子ども食堂の可能性」

特定非営利活動法人こども食堂わかやま 理事長 岡 定紀様



こども食堂は「子どもが一人でも安心して来られる食堂」として 2012 年に誕生しました。現在は全国に 7000 カ所を超えるほど増えています。

当初は子供の貧困対策の取り組みという観点から注目されましたが、現在は子供だけでなく大人、高齢者も含めた地域の多世代交流としての価値が注目されています。その背景には、無縁社会と言われる人間関係の希薄さがもたらす弊害に対し、私たち一人ひとりが出来ることは何かという自発的な意識の沸き起こりがあります。

「近年、人間関係が希薄になったなあ…」、「共に食事をするのって、やっぱり楽しいなあ。」、「子供の笑顔は癒されるし、明日の力を与えてくれるなあ。」

といった共感の輪がどんどん広がっています。

今回、コロナ拡大後に会食を自粛せざるを得なかった、この3年間の活動を中心に紹介しました。コロナ禍において以前は楽しく食事を囲んでいた人々でも、突然、生活困窮に陥るといったケースも多々ありました。

このような人々を少しでも支えていくには、私たち民間ボランティアの活動も大切です。コロナで行き場を失った食材はどこに行くのか。必要な人に必要な時に届けられ、誰も取り残されない地域づくりは如何にして可能か。そのような課題に取り組めば取り組むほど、平常時の繋がりこそ非常時の迅速な支援に繋がることを実感します。

今後も、こども食堂を通して多くの人々を繋げていきたいと思えます。



「ロータリー会員、ウクライナに仮設住宅を設置」

手頃な価格で簡単に設置できるプレハブ住宅は、家という形で安心と希望を被災地に届けます。

《MY ROTARY ニュース・特集記事より 記事 31-Aug-2023 文 : Etelka Lehoczky》

ナタリア・ペレフレンコさんの人生は、2022年3月16日を境に一変しました。その日、ウクライナのモシユン村にある自宅はロシアの攻撃によって全壊しました。「私の家はロケット弾によって破壊されました。着弾したのは娘が子どもと一緒に暮らしていた部屋でした。家が火で包まれるより先に避難を終えていたのが不幸中の幸いでした」 現在、ペレフレンコさんと家族はモシユンに戻っています。しかも自宅のあった場所で、ロータリー会員から寄贈された仮設住宅に住んでいます。

世界中のロータリー地区は、総額約 100 万米ドルの災害救援補助金によって 76 戸の小規模住宅を寄贈しました。この住宅は主にモシユンで使用されています。この取り組みはウクライナの雇用を支えています。また、この住宅の構造は再利用できるため、持続可能性も確保しています。しかし何より重要なことは、仮設住宅が市民の生活に迅速かつ大きなインパクトを与え、希望につながっていることです。戦前の人口は約 1,500 人だったモシユンの村がプロジェクト実施地となったのは偶然ではありません。キーウの北約 30 キロメートルに位置するモシユンは、戦争初期の数カ月の間に壊滅的な被害を受けました。建物の 85% 近くが全壊し、多くの住民が犠牲になりました。

キーウシティ・ロータリークラブの会員は、世界中のロータリー地区に自国の再建支援を要請した当初から、すぐに目に見える成果を上げるには救援活動を一カ所に集中する必要があると承知していました。「目に見える大きな成果を上げるため、この村に活動を集中することにしました」とウクライナのキーウシティ・ロータリークラブの事務局長／幹事であり、プロジェクトのコーディネーターでもあるセルギイ・ザヴァドスキーさんは述べています。「あちこちに物資を配って複数の地点で確実な成果を上げようとすると、ロジスティクスの面から考えてプロジェクトの遂行が困難になってしまうからです」 世界中のほかのロータリー会員は、この村がウクライナのほかの地域での同様の支援活動の手本になると気づきました。これが、第 7910 地区(米国マサチューセッツ州)の会員が 2 戸の仮設住宅を寄贈するきっかけとなりました。

「モシユンは雛型です」とシュルーズベリー・ロータリークラブ(マサチューセッツ州)会員であり、第 7910 地区ロータリー財団委員長でもあるロイ・バルフォーさんは述べています。「問題はモシユンをどのように再建するかということだけではありません。真の課題は、ウクライナという国をどのように再建するかということです」その方法のひとつが仮設住宅です。プレハブ住宅が再建支援活動の重要部となる理由はいくつかあります。ほとんどの仮設住宅は 1 戸 12,500 米ドルで建設することができ、4 人家族が暮らすための基本的設備であるリビング、キッチン、トイレとシャワー、大人 2 人と子ども 2 人用の 2 段ベッドを完備しています。

仮設住宅は、新築するよりも多くの利点があります。小型かつ軽量なので、工場で組み立ててから利用地へ輸送できます。到着すると、クレーンで持ち上げて簡単に所定の位置に設置できます。熟練の作業員が現場で組み立てる必要がないため、一度に多数の住宅を再建する必要がある場所に最適です。

「この村の住民は家を必要としていました。それも至急に」と、リマヴァディ・ロータリークラブ(北アイルランド)会員であり、第 1160 地区ロータリー財団委員長でもあるハワード・カスキーさんは言います。「伝統工法では、私たちが求めている期間内に住宅を建てられません。私たちが求めていたのは更地から 4 週間で心地よく暮らせる家を建てることでした」カスキーさんの地区は、キーフ地域で 2 戸の家族向け住宅を寄贈しました。1 軒は 4 人家族用、もう 1 軒はさらに大きな 10 人家族用でした。

カスキーさんは次のように述べています。「本当に素敵な家でした。とてもこんなに短期間に建設されたものとは信じられませんでした」カスタマイズ可能であることに加えて、小さな家は汎用性があります。それぞれの家は無条件で与えられるわけではなく、賃貸住戸として家族に提供されます。その後、家族が定住する家が再建されると、仮設住宅は再利用することができます。「仮設住宅には次の家族が入居する場合もあれば、診療所や教室に転換することもできます」とバルフォーさんは言います。

ザヴァドスキーさんによると、仮設住宅は難民キャンプの代替手段としても利用されているといいます。仮設住宅はどんな場所にも、たとえば既存の地下室や狭い床下にさえ設置できるため、居住者は自分の土地やその近くに留まることができます。ザヴァドスキーさんは次のように述べています。「これまで市街地で家を失った人びとの支援策といえば避難所の設営が一般的でした。しかし、モシユンについてはそれが適切な解決策ではないと考えました。村の住民は誰もが自分の土地の近くに留まることを望んでいたからです。また、避難所を設営するには、100 戸以上に電気を供給する電源と給水施設も手配する必要があります。つまり大がかりなプロジェクトにならざるを得ません」ほとんどの住民は自前の井戸で水は確保できますが、問題は電気でした。住宅の暖房にはセラミック製の電気パネルを使用していますが、停電が多いため、住民は予備の発電機を必要としていました。ザヴァドスキーさんはすぐに世界に向けて募金を呼びかけました。

「特に農村部では停電が大きな問題でした。そのため、仮設住宅に入居している各家族に発電機を提供するための追加のプロジェクトを組織しました。今ではほとんどの家族が発電機を持っており、自立した生活を送っています。停電しても、発電機があれば極寒の時期でも暖房用の電気を供給することができます」バルフォーさんが言うには、仮設住宅にはもう 1 つメリットがあります。仮設住宅は入居者に安心できる家を提供するだけでなく、ウクライナ国内で建設することによって雇用も提供しているのです。

「ロータリーでは『持続可能性』という言葉が頻繁に出てきますが、この仕組みこそ持続可能だと私は思います」とバルフォーさんは言います。「この持続可能なシステムにより、ウクライナ国内のほかの地域も再建するための支援ができます。場合によっては同じ仮設住宅を再利用できるかもしれません」

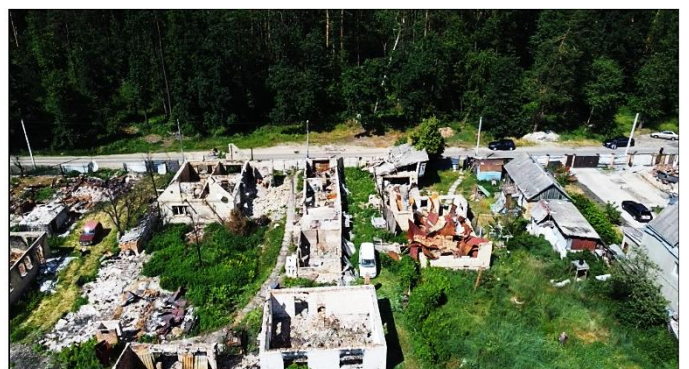
ペレフレンコさんの一家は、2022 年 9 月に仮設住宅に入居できました。自分の土地に帰って小さな家が建っているのを見た時に嬉しくて涙が出たと言います。「何もなかった我が家の庭に、私たちのために建てられた家が運ばれてきたのを見たとき、信じられないほどの喜びが湧き上がりました」とペレフレンコさんは言います。「幸福で、喜びの涙が出ました。家は間違いなく私たちに力を与えてくれました」その新たに芽生えた希望をもって、今では再建計画を立てています。

「絶望感や、この先何をすればいいのかわからないという気持ちは消えました。家を手に入れたとき、庭を掃除しよう、がれきを片付けようという力が湧いてきました。元の家を再建についても考えが浮かび始めました。それまではすべてをあきらめた気持ちで、何もする気力がありませんでした。それが生まれ故郷に戻ることによって「我が家」のエネルギーを感じました。今はここが力をくれる場所です」

ロータリークラブの仮設住宅の寄贈は、災害救援補助金を活用しています。



仮設住宅で暮らすナタリア・ペレフレンコさんとその娘と孫娘 写真提供: Sergii Zavadskyi



被災したモシユン(ウクライナ) 写真提供: Sergii Zavadskyi